

ひと・まち広島未来づくりファンド

第22回(令和6年度)助成団体の活動成果について

	団 体 名	活動企画案内	助成金額
助 成 団 体 部 門 成 育 門 成	國光神楽団	十二神祇神楽復活によるまちづくり	4.6万円
	ぼるけーのの会	Zoomミーティング利用を拡充するための環境整備	3.3万円
	牛田ほおずき姫探検ラリー	牛田ほおずき姫探検ラリー	2.5万円
	計 3団体		10.4万円
ま ち づ くり 活 動 発 展 助 成 部 門	くらりか広島	地域におけるプログラミング学習の活性化	39.2万円
	特定非営利活動法人 ホープスマイル	地域の空き家を利用した子ども達の居場所作り	38万円
	特定非営利活動法人 広島県手話通訳問題研究会	手話と出会い広める	20.4万円
	一般社団法人 100年後の広島を創ろう委員会	ひろしま「かがり灯」の祭典	25.1万円
	計 4団体		122.7万円
	合計 7団体		133.1万円

※各部門ともに応募申請順

団体名【 國光神楽団 】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	十二神祇神楽復活によるまちづくり
②実施期間	2024 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 國光神楽団
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 実施方法： 広島市安佐南区沼田町伴地区で継承が途絶えていた郷土芸能「十二神祇神楽」について、2022 年の國光神楽団結成以降復活に取り組み、本年度も継続して保存・伝承・発展に取り組んできた。今回の事業では複数の演目で使用する「神楽鈴」を2組購入し、上演できる演目の充実を図り、地区内の秋祭り奉納神楽などの際に活動の支えとなった。また、本番同様の道具を使用して練習することで、団員のモチベーションアップにもつながった。 活動地域：広島市伴福祉センター(毎週の練習) 安佐南区沼田町伴地区を中心として広島市内各地(公演) 対象者：団員現在 8 名(練習)・一般地域住民ほか不特定多数(公演)
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 次年度以降も十二神祇神楽の継承に取り組み、郷土文化の地域還元努める。特に、自主公演の開催には力を入れ、地域の魅力として十二神祇神楽のブランド化を目指す。地域への還元として、地元企業や地域住民との関わりにこだわりをもって活動を継続していく。 本年度の活動を振り返り、団員不足により活動の展開が思うようにできていないことが課題として挙げられる。とはいえ、現在の活動の中心は 10 代、20 代のため積極的に活動を継続しており、今後も青少年の参加を積極的に受け入れ、より活発に日々の活動を展開していきたいと考えている。

団体名【 ぼるけーのの会 】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	Zoom ミーティング利用を拡充するための環境整備
②実施期間	2024年 7月 1日～ 2025年 3月 31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) ぼるけーのの会
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ①サポートをするボランティア会員の中には視覚障害者も多いことから、会場に参集せずに定例会や勉強会に参加できるオンライン会議は必須。助成金で購入したPCのおかげで、Microsoft TeamsやFaceTime、BIZMEE等を駆使してオンライン会議が開催できている。 ②専用のPCがあることで、今まで一部の会員しかオンライン会議のホストになることができなかったため、その会員の負担が重かった。現在はホスト役となりオンライン会議のスケジュールリングや、すぐに会議を起ち上げられる会員が増えた。そのため、定例会や勉強会の会場に集まった会員の中からホストを選ぶことができている。 ③オンライン会議のアプリを使い、オンラインサポートも実施。画面共有を利用することで、ユーザー会員の困りごとの解決につながっている。 ④当会の経済状況を考え、Zoom契約は断念。代わりに会費等を見直し、サポートしやすい状態を優先した。
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ①専用のPCがあることで、アカウントの変更など煩雑な作業が減って、オンライン会議や会専用のメールの送受信が容易になった。さらに、いろいろなPCに触れることで、Windows10とWindows11の違いなどを体感することができている会員もいる。 ②視覚障害者の多くが使っているPCトーカーのアプリは高価でインストールできないため、無料で使えるNVDAやWindowsに搭載されているナレーターを使うことで視覚障害を持つ会員がオンライン会議のホストになれるようにしていきたい。 ③オンライン会議だけでなく、当会の目的は、視覚障害者や高齢者がPCやスマートフォン等の情報機器が使えるようにサポートする事である。障害の有無にかかわらず、会員のスキルアップのために勉強会や講習会は今後も続けていかなければならないと全会員が感じている。 ④多くの高齢者が使用しているアンドロイドのスマートフォンに対するサポート要請が届いているが、現在は音声機能の付いたiPhoneが主流になっている。今後はアンドロイドのサポートもできるよう、スマホの取得を視野に入れるなどサポート環境を整備したい。

団体名【 牛田ほおずき姫探検ラリー 】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	牛田ほおずき姫探検ラリー
②実施期間	R6 年 3 月 18 日～ 6 年 7 月 20 日
③実施主体	牛田活性化活動ほおずき姫探検ラリー運営委員会 プレほおずき祭運営委員会、 牛田協力店40店舗 お寺3、神社1
④内容	（実施方法、活動地域や会場、対象者など） ・孤立しがちな子育て世代や高齢者の外出の機会を作るため地域のお店や施設でスタンプラリーをして地域活性化につなげていく。 ・スタンプラリーと一緒に日頃の悩みや困り事を書くアンケートをつけて提出していただき相談所につなげていく。 ・牛田の伝統ある祭の継続、アフターコロナのお祭りの在り方を地域みんなで考えるきっかけをつくる。 ・一人一人違った考え方、障がい、病気、文化など認め合い優しい牛田の町づくりを目指す SDGs
⑤今後の 課題・展望	前回のスタンプラリーリベンジで、R6 7月6日～7月20日までコラボイベントを開催しました。プレほおずき祭です。44店舗お店、神社お寺と協力して夏休みにしたので、大盛況で、1500人参加されました。今後も伝統ある地域のほおずき祭商店街スタンプラリーを誰もが負担なく、助成金の範囲内で、コロナ感染感染予防も考慮された新しい形のデジタルスタンプラリーにしたいです。牛田の文化歴史魅力あるほおずき祭りを地域とお店、福祉教育医療施設関係者みんなで考えて楽しく継続し SDGs な祭にしたいです。 そして、災害や困った時にお店やご近所で気軽に助け合え、いち早く教育福祉医療などの施設からの支援が利用でき自立した生活ができる町をつくっていきたいです。

団体名【くらしか広島】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	「地域におけるプログラミング学習の活性化」
②実施期間	2024年4月7日 ～ 2025年3月16日
③実施主体	（主催、共催、後援、連携した機関・団体など） 主催：くらしか広島 連携：蔵前工業会（東京科学大学理工学系同窓会）
④内容	（実施方法、活動地域や会場、対象者など） 1）定期開催教室 小学生参加数：延べ838名、保護者参加数：延べ659名 プログラミング初級コース（毎月5クラス）：延べ611名 プログラミング中級コース（毎月3クラス）：延べ148名 プログラミングA I コース（毎月1クラス）：延べ59名 【地域別】 ①二葉公民館（東区東蟹屋町） 小学生延べ139名、保護者126名 プログラミング初級コース：延べ80名、プログラミングA I コース：延べ59名 ②宇品公民館（南区宇品御幸） 小学生延べ298名、保護者218名 プログラミング初級コース（毎月2クラス開催）：延べ298名 ③観音公民館（西区観音本町） 小学生延べ70名、保護者52名 プログラミング初級コース：延べ70名 ④向洋新町会館（南区向洋新町） 小学生延べ170名、保護者延べ138名 プログラミング初級コース：延べ80名、プログラミング中級コース：延べ90名 ⑤春日野集会所（安佐南区山本新町） 小学生延べ141名、保護者110名 プログラミング初級コース：延べ83名、プログラミング中級コース：延べ58名 2）ロボットプログラミング教室 小学生参加数6名、保護者参加数2名 開催日時：2025年3月16日 13:30～15:30 場所：二葉公民館 参加者学年：小学1年：1名、3年：3名、4年：1名、5年：1名 3）プログラミング発表会：小学生29名（発表16名、見学13名）、保護者51名 開催日時：2025年3月9日 10:30～12:00 活動場所：東区民文化センター 発表者学年：小学1年2名、2年2名、3年5名、4年4名、5年2名、6年1名

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 1) 各地域の集会所や公民館で定期的・継続的に開催することで、プログラミング学習のコミュニティ作りのきっかけとなりつつある。 2) 児童だけでなく同伴している保護者もプログラミングについての知識を得ることができ、市民全体の情報リテラシーの向上につながっている。 以下はプログラミング発表会でのアンケートの保護者のコメント： このような発表会があると意欲も湧き、自分で作成する事によりプログラミングの知識、技術も身につくのと、発表する事で普段とは違う経験も出来てとても良いと思います。
⑥目的の 達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 【成功した点】 ・各地域で開催することで、参加者の都合が悪い日は別の日に他の地域で受講することができたので継続して参加してもらうことができた。 ・発表会において「くらりか」のメンバーで事前に児童が作成したプログラムを評価し当日にコメントすることで発表児童が頑張ったことを評価してもらえたことで喜びを感じることができただけでなく、参加者の皆さんがプログラムの内容をより理解することができた。 【失敗した点】 ・新規児童を対象にした入門教室の募集を Instagram などの SNS を活用したいと思っているが、以前として SNS の配信方法がよく分からず、うまく活用できていない。
⑦今後の 課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 1) 活動地域を広げていくにつれて運営側の負担が大きくなるが、さらに地域を拡大して活動を継続していくためには、各地域の人たちが中心となった運営団体を形成し、プログラミング教室を主体的に運営していけるようにする必要がある。この運営団体を形成するための活動に取り組んでいきたい。 2) 児童が自分のプログラミング能力が伸びていることを実感できるようにプログラミング検定のようなものを活用して児童がレベルアップをはかるモチベーションにしていきたい。 3) Instagram などの SNS をうまく活用してもっと多くの人にこの活動を知ってもらい、参加者を増やしていきたい。

団体名【特定非営利活動法人ホープスマイル】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	地域の空き家を利用した子ども達の居場所作り
②実施期間	2024年4月1日～2025年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 特定非営利活動法人ホープスマイル
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 会場：広島市安佐北区深川 対象者：深川小学校児童、子ども食堂に参加している児童(小学生) 毎週木曜日の放課後 13:30～17:30 と毎月第2土曜の 10:00～16:00 に開催。 木曜の活動内容：学習支援、おやつ作り(かきごおり・ホットケーキ・クレープ・チョコバナナ・ワッフル・マドレーヌ・パフェ・キャラメルポップコーン・ガトーショコラ・プリン・チョコスコーン・メレンゲクッキー・チョコクロワッサン・ココアムース・イチゴ飴・焼きポンデリング・バナナジュース) 土曜の活動内容：昼食づくり(タコス・ピザ・オムライス・卵スープ・やきそば・ホットサンド・たこ焼き・シチュー・カレーライス) 木曜・土曜共通：室内活動→レジン作り・スライム作り・ホワイトボードにお絵描き・トランポリン・キーボードで音楽遊び・プラレール・マグビルド・ラキュー・工作・風船遊び・オセロ・トランプ・絵具遊び・おままごと・羊毛フェルト作り・駒回し・ペットボトルボーリング・米粉粘土遊び・レゴブロック・けん玉・投げ輪・小麦粉粘土作り 戸外活動→シャボン玉・ボール遊び・水遊び・バトミントン・おにごっこ・キャッチボール・縄跳び 木曜は39回開催で335人参加 土曜は9回開催で94人参加 ふかわ子ども食堂と合同開催で 7月は夏祭り開催で23人参加 12月はクリスマス開催で25人参加 1月の土曜日は広島文教大学の学生さんによる企画『ウインターチャレンジ』を行い、アップルパイ作り・スノードーム作り・テント設営を学生さん主導で行った。 11月の土曜日はお芋ほりを行い、サツマイモのおやつ(スイートポテトと大学芋を作った。)

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 学生ボランティアさんを積極的に受け入れ夏祭り・クリスマス会の企画運営を任せたり広島文教学生さんの企画や土曜日に毎回学生ボランティアさんが参加したことで子ども達としっかり関わってくれ子ども達が喜んだ、楽しかったという反響を多く受けた。改修により拠点を持てたことで定期開催が楽になり準備にも手がかけられることでボランティアの負担の軽減や参加する子ども達の満足感が増えた。それにより入会希望が増えるなど認知の拡大にも貢献している。(現在入会待機をしてもらっている。)地域の方にも認知が広がってきている。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 今まで開催していた子ども達の居場所ルームを継続して定期的開催出来た。学生ボランティアも積極的に受け入れたくさんの学生が参加。そのうち定期的に参加してくれる学生もできた。 当初の目的を達成できなかったことは、夏休みのカレー提供(水に鉄分があり調整が必要だった)・学校に行きたくない時の居場所(拠点の整備に時間がかかり準備が間に合わなかった。) 成功点：拠点の整備や学生ボランティア受け入れにより子ども達の満足度が上がった。 失敗点：特になし 実施上工夫した点：子ども達が楽しめるように意見をよく聞きました。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 来年度は、夏休みのカレー提供の実施・学校に行きたくない時の居場所ルーム『スマイルルーム』を新規開催します。スマイルルームに関しては学校との連携も取れていて参加者が入室した場合はその児童の担任と話し合い学習内容を決めていったりして出席としてみなされるようにします。それに加えて月に1回深川地域の子ども達誰でも参加できる『ふかわのあそびば』という時間も作って自由に遊べるようにします。『スマイルルーム』『ふかわのあそびば』ともにチラシを作り地域の小学校に配布してもらうように校長先生に渡してあります。活動の認知が広まるにつれ参加したい児童が増えてきていて土曜は学生ボランティアが参加してくれるのでいいのですが、木曜の開催について私一人では手が回らず来年度はスタッフ雇用を考えています。人件費が出せるように新たな助成金の確保と賛助会員の確保に努力しています。

団体名【特定非営利活動法人広島県手話通訳問題研究会】

注意:助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報(個人情報)は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	手話と出会い広める
②実施期間	2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 2 月 23 日
③実施主体(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)	主催:特定非営利活動法人広島県手話通訳問題研究会 連携した機関・団体:(一社)青年会議所、広島県立総合体育館、 (社福)広島市手をつなぐ育成会 広島市就労支援センター、(社福)うすい会広島光明学園
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 1. 講演会「手話と出会う」～手話のあふれる早期支援・こめっこの取り組み～ 講師:NPO こめっこ理事 日時:2024 年 4 月 14 日(日)10 時～12 時 会場:広島市東区地域福祉センター 3 階大会議室 対象者:手話学習者、手話通訳者、ろう者、ろう者の保護者、教育関係者、一般 2. パンフレット「手話ってなあに」作成 3. 「手話で絵本」手話による絵本の読み聞かせ ①(一社)広島青年会議所主催 「こころ つなぐ ひろしま 多様祭」ブースで出店 日時:2024 年 8 月 18 日(日)12 時～17 時 読み聞かせを 3 回実施 会場:広島ゲートパーク 対象者:一般 ②広島県立総合体育館主催 「インクルーシブ・スポーツ・フェスタ」ブース出店 日時:2024 年 9 月 28 日(土)12 時～16 時 読み聞かせを 3 回実施 会場:広島県総合体育館 小アリーナ 対象者:一般 ③(社福)広島市手をつなぐ育成会 広島市就労支援センター主催 「せるぷマルシェ」ブース出店 日時:2025 年 1 月 18 日(日)11 時～11 時 30 分、13 時～13 時 30 分 読み聞かせを 2 回実施 会場:無印良品広島アルパーク店 対象者:一般 ④(社福)うすい会広島光明学園 日時:2025 年 2 月 10 日(月)10 時 30 分～10 時 45 分 会場:光明学園 8 階ふれあいスペース 対象者:幼児、高齢者 4. 研修会「通訳者の倫理研修会 ～守秘義務について～」 講師:全国手話通訳問題研究会あり方検討委員会委員 日時:2025 年 2 月 23 日(日・祝)10 時～16 時 会場:広島市東区地域福祉センター 対象者:手話学習者、手話通訳者 5. 研修会 手話技術の向上のために動画を撮影し、学習用に利用している 講師:ろうあ者 2 名 対象者:手話学習者、一般

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 1. 講演会 聴覚障害児が乳幼児期に手話に出会うことの大切さを保護者をはじめ手話関係者、教育関係者など多くの人々に広めることができた。 参加者からは、「聞こえない子どもが生まれ、戸惑っているお父さんお母さんにとってすごく心強い存在だと思いました。」「子どもが赤ちゃんの時から、お母さんお父さんも一緒に手話に出会える場があるのは素晴らしい取り組みだと思いました。」「広島にも「こめっこ」と同じような場があると良いと思います。」といった感想をいただいた。 2. パンフレット イベントで配布し、参加者が手話に関心を持つきっかけづくりに役立った。手渡しした時、誰もが受け取ってくれた。もっと欲しいと言われた。 3.手話と絵本 人が多く集まるイベントなどに、誰もが一度は触れたことのある絵本を使って「手話に出会える場」を作り、関心を持ってもらえたことで、市民に手話を広めていくきっかけを作れた。参加者が手話を真似し、自然に手を動かしていた。子どもの頃から手話に出会い、手話にふれる機会があることは大切だと実感した。 4.通訳者研修会 手話通訳者は、聴覚障害者と社会をつなぐ役割を持っている。 手話通訳者には守秘義務が課せられていると、きちんと市民に知らせれば、安心して手話通訳を利用してもらえることを学んだ。 手話通訳が当たり前にあることが、ろう者の社会参加につながっていくと感じた。 聴覚障害者と聴者が、住み慣れた広島市でよりよく暮らすための大切な研修会となった。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 1. 大阪での活動を知ることができた。 2. 誰もが受け取ってくれるパンフレットになった。日常的に使う手話をイラストで紹介したことで分かりやすいと好評を得た。 3. 案内看板やユニフォームを作ったことで周りの目を引き、団体をアピールできた。季節に合わせた絵本を選んだ。 4. 参加者同士で事例検討を行った時には、経験豊富な講師による根拠の明確な解説があり、理解をさらに深めることができた。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 「手話で絵本」の活動を継続して、会員の活動の活性化にもつなげていく。活動の場を広げるためにSNSなどで活動を広報する。 「倫理研修会」で学んだことを生かして、事例検討会や学習会を継続して行い、「守秘義務」について相手に伝わるように言語化できるようにブラッシュアップする。 誌上学習会を継続し、手話通訳技術の向上に努める。

団体名【 一般社団法人 100年後の広島を創ろう委員会 】

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

1. 活動報告

①活動テーマ	第10回 ひろしまかがり灯の祭典
②実施期間	2024年 8月 5日 ～ 2024年 8月 5日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) ひろしまかがり灯プロジェクト 後援に 広島市、他 各メディア後援団体
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 8月5日の18時より 広島市中区、平和公園内の原爆ドーム前の元安川と親水テラスを使用して開催しました。 当日は行き交う国内外の観光客や広島市民約3,000人を目前に祭典をおこない、元安川の川面に「25基のかがり灯」を浮かべ実施。 今回のプログラムとしては、 1. オープニング 湯来南高校 和太鼓部による 和太鼓演奏 2. かがり灯 開会式 内閣総理大臣・広島市長・広島県知事メッセージの代読、代表者挨拶 3. 合唱団による合唱 4. 舞踊・パフォーマンス 5. 「かがり灯」点灯式（尺八の音色とともに） 6. 歌唱「国歌斉唱」「未来に咲く希望の花」 7. 被爆バイオリンコンサート 書道パフォーマンス・朗読 8. 消灯式 「イマジン」合唱 という流れで行いました。 (ご協力して頂いた方々は全員、本プロジェクトにご賛同いただき無報酬です)

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 子供たちから大人まで、年齢に関係なくこれからの平和を祈る時間を作ること 8月5日の広島の前夜だからこそできる、神聖な時間を、 「広島から世界へ」発信することができたと感じます。 2015年より世界で始まったSDGs。 16番目の項目である「平和と公正をすべての人に」を目標に、 当プロジェクトは持続可能な社会を継続して行く架け橋になっていきます。
⑥目的の 達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 今年も各社新聞に取り上げて頂き、8月6日の朝刊にかがり灯の写真が掲載されました。 (中国新聞以外) 共同通信社のウェブサイトに掲載され、youtubeで世界へ動画が配信されました。 今年も大きなトラブルがなく終了できました。
⑦今後の 課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 大きなトラブルはありませんでしたが、 ・ 出演者の熱中症による出演辞退 ・ いつも警戒船を依頼していた団体から 今年以降、船を出していただけないと通達がきたこと ・ 1年を通じてかがり灯を応援していただけるような体制にしてゆくこと など、今後取り組んでいかなければならない課題が浮き彫りになりました。 今年度は被爆80年という節目の年でもあり、更なる10年への飛躍の年となるよう、より一層平和の訴えが心に残るプログラムにすべく、 本年度のプロジェクトを始動させ始めたところです。